

2023年1月～3月期中小企業景況調査結果

中小企業の景況感、足踏み

-来期は改善する見通し-

◇調査結果の概要

今期は、業況判断、売上及び採算の各 D.I. で前期実績を下回った（全産業平均）。
来期は、業況判断、売上及び採算の各 D.I. で前期実績を上回る見通し（全産業平均）。

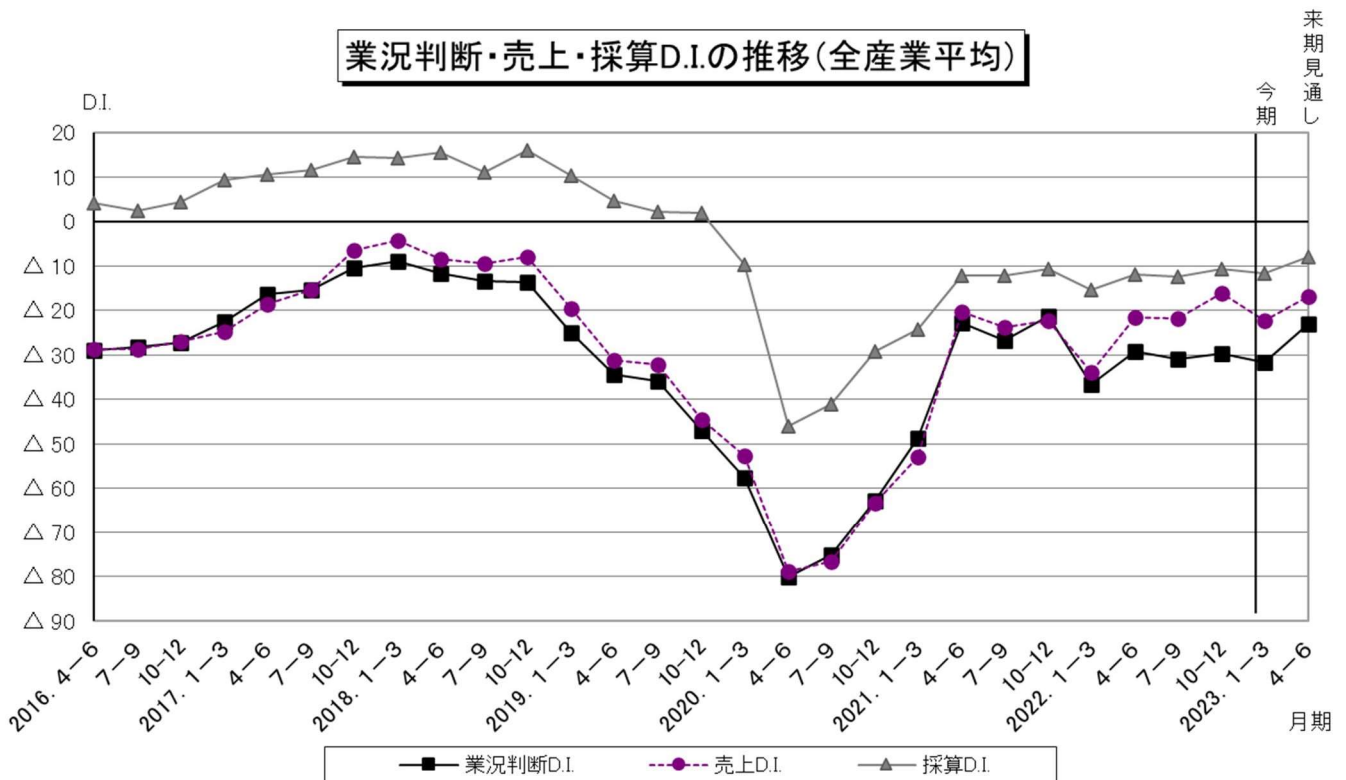
指標別の状況（全産業平均）

- 業況判断 D.I.は、前期実績△29.7 から△31.6(1.9 ポイント減)となり、来期は△23.0(8.6 ポイント増)となる見通し。
- 売上 D.I.は、前期実績△16.1 から△22.3(6.2 ポイント減)となり、来期は△16.8(5.5 ポイント増)となる見通し。
- 採算 D.I.は、前期実績△10.6 から△11.6(1.0 ポイント減)となり、来期は△7.3(4.3 ポイント増)となる見通し。

産業別の状況

- 製造業では、業況判断、売上及び採算の各 D.I.で前期実績を下回った。
- 卸・小売業では、業況判断、売上及び採算の各 D.I.で前期実績を上回った。
- 建設業では、業況判断、売上及び採算の各 D.I.で前期実績を上回った。
- サービス業では、業況判断で前期実績を上回り、売上及び採算の各 D.I.で前期実績を下回った。

業況判断・売上・採算D.I.の推移(全産業平均)



調査時期:2023年3月1日から3月10日まで
調査対象:中小企業 2,000 社 (回答社数 1,260 社 回答率 63.0%)

業況判断D. I. の推移

業種	2021年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)	2023年4-6月期 (来期)
全産業	△ 36.5 (△ 12.6)	△ 29.1 (△ 25.2)	△ 31.0 (△ 21.5)	△ 29.7 (△ 25.2)	↘ △ 31.6 (△ 24.7)	↗ △ 23.0
製造業	△ 33.6 (△ 4.4)	△ 30.8 (△ 23.1)	△ 30.1 (△ 20.7)	△ 26.5 (△ 20.1)	↘ △ 32.0 (△ 19.3)	↗ △ 20.5
卸・小売業	△ 48.0 (△ 24.2)	△ 27.1 (△ 32.9)	△ 38.5 (△ 26.7)	△ 46.9 (△ 41.2)	↗ △ 40.7 (△ 41.9)	↗ △ 33.6
建設業	△ 26.9 (△ 33.3)	△ 34.8 (△ 23.5)	△ 18.5 (△ 24.6)	△ 20.0 (△ 21.5)	↗ △ 19.4 (△ 21.4)	→ △ 19.4
サービス業	△ 35.1 (△ 27.4)	△ 17.9 (△ 22.5)	△ 27.0 (△ 12.3)	△ 19.0 (△ 25.5)	↗ △ 15.6 (△ 23.8)	↘ △ 17.2

() 内は1期前における当期見通し

売上D. I. の推移

業種	2021年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)	2023年4-6月期 (来期)
全産業	△ 33.9 (△ 12.5)	△ 22.8 (△ 20.8)	△ 21.7 (△ 17.7)	△ 16.1 (△ 18.8)	↘ △ 22.3 (△ 19.2)	↗ △ 16.8
製造業	△ 30.3 (△ 3.8)	△ 23.2 (△ 16.3)	△ 20.1 (△ 16.9)	△ 12.2 (△ 13.1)	↘ △ 21.0 (△ 13.6)	↗ △ 11.6
卸・小売業	△ 44.4 (△ 25.8)	△ 20.4 (△ 31.3)	△ 25.7 (△ 19.6)	△ 32.7 (△ 33.9)	↗ △ 31.4 (△ 33.8)	↗ △ 28.5
建設業	△ 26.5 (△ 29.0)	△ 33.3 (△ 32.4)	△ 16.9 (△ 23.2)	△ 12.9 (△ 21.5)	↗ △ 11.9 (△ 18.6)	↘ △ 17.9
サービス業	△ 38.7 (△ 28.1)	△ 19.6 (△ 20.7)	△ 26.1 (△ 15.1)	△ 7.9 (△ 21.8)	↘ △ 16.4 (△ 22.8)	↘ △ 23.0

() 内は1期前における当期見通し

採算D. I. の推移

業種	2021年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)	2023年4-6月期 (来期)
全産業	△ 15.5 (△ 6.1)	△ 11.9 (△ 8.1)	△ 12.5 (△ 6.2)	△ 10.6 (△ 7.9)	↘ △ 11.6 (△ 7.9)	↗ △ 7.3
製造業	△ 16.0 (△ 2.3)	△ 12.3 (△ 7.2)	△ 13.2 (△ 4.3)	△ 11.5 (△ 7.6)	↘ △ 12.4 (△ 8.0)	↗ △ 6.8
卸・小売業	△ 26.4 (△ 17.2)	△ 21.5 (△ 17.7)	△ 24.1 (△ 19.3)	△ 24.6 (△ 20.6)	↗ △ 24.0 (△ 23.1)	↗ △ 18.9
建設業	8.8 (△ 8.7)	△ 8.7 (1.5)	10.8 (2.9)	14.3 (10.8)	↗ 20.9 (14.3)	↘ 15.2
サービス業	△ 2.7 (△ 3.5)	13.2 (0.9)	5.4 (7.5)	10.2 (9.1)	↘ 3.3 (11.9)	↘ 2.5

() 内は1期前における当期見通し

設備投資実施率の推移

業種	2021年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)	2023年4-6月期 (来期)
全産業	30.4% (30.4%)	26.4% (31.3%)	29.4% (29.0%)	30.0% (28.0%)	↘ 28.3% (28.7%)	↘ 26.8%
製造業	32.7% (36.5%)	30.9% (36.3%)	34.4% (34.1%)	33.9% (32.3%)	↘ 32.3% (33.7%)	↘ 32.1%
卸・小売業	23.4% (18.8%)	17.8% (22.6%)	18.0% (19.3%)	19.5% (18.0%)	↘ 19.3% (18.1%)	↘ 14.8%
建設業	29.9% (23.2%)	22.4% (25.0%)	21.5% (21.7%)	28.6% (21.9%)	↘ 25.4% (24.3%)	↘ 19.4%
サービス業	30.9% (21.1%)	18.9% (21.8%)	26.4% (21.5%)	29.1% (24.3%)	↘ 24.6% (22.8%)	↘ 23.8%

() 内は1期前における当期見通し

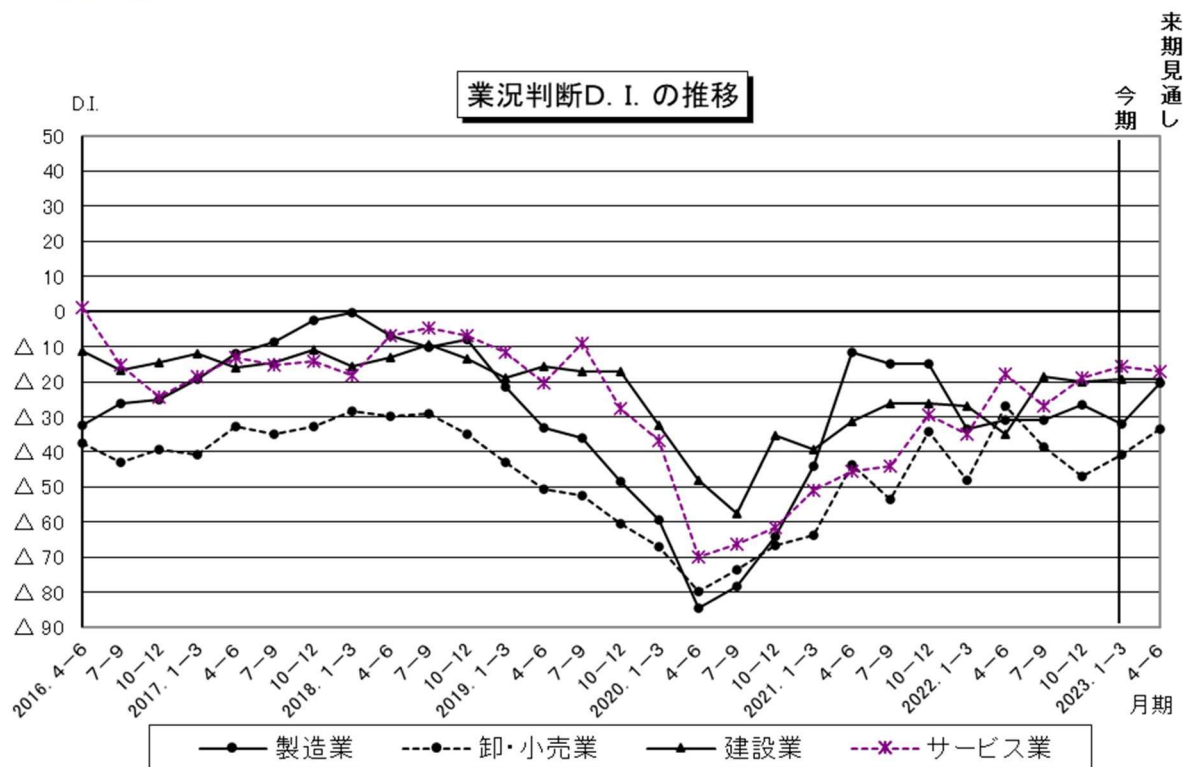
今期（2023年1月～3月期）の実績

「業況判断D.I.」の動向

業種	2022. 1-3	2022. 4-6	2022. 7-9	2022. 10-12	2023. 1-3(今期)	2023. 4-6(来期)
全産業	△ 36.5	△ 29.1	△ 31.0	△ 29.7	↘ △ 31.6	↗ △ 23.0
製造業	△ 33.6	△ 30.8	△ 30.1	△ 26.5	↘ △ 32.0	↗ △ 20.5
食料品	△ 16.7	7.0	△ 5.9	△ 7.2	↘ △ 15.5	↗ △ 8.5
繊維工業	△ 47.0	△ 18.2	△ 23.6	△ 17.3	↘ △ 20.6	↗ △ 16.2
木材・木製品	△ 20.9	△ 43.5	△ 40.8	△ 47.4	↗ △ 34.9	↗ △ 32.6
家具・装備品	△ 18.8	△ 63.2	△ 35.3	△ 18.8	↘ △ 44.4	↗ △ 33.3
紙・加工品	△ 23.7	△ 34.1	△ 41.0	△ 34.4	↘ △ 35.1	↗ △ 21.6
印刷	△ 33.3	△ 28.6	△ 38.7	△ 29.0	↘ △ 32.3	→ △ 32.3
化学・ゴム	△ 42.6	△ 28.8	△ 32.8	△ 15.8	↘ △ 35.0	↗ △ 16.7
窯業・土石	△ 51.0	△ 38.6	△ 43.6	△ 41.4	↗ △ 39.6	↗ △ 37.0
鉄鋼・非鉄	△ 39.0	△ 55.0	△ 48.5	△ 46.2	↗ △ 42.9	↗ △ 35.7
金属製品	△ 26.4	△ 23.2	△ 23.9	△ 23.6	↘ △ 36.4	↗ △ 25.5
一般・精密機器	△ 19.4	△ 17.7	△ 26.7	△ 16.4	↗ △ 13.8	↘ △ 16.9
電気機器	△ 33.3	△ 29.5	△ 18.4	△ 37.5	↘ △ 39.5	↗ △ 14.0
輸送機器	△ 54.4	△ 62.9	△ 38.4	△ 33.3	↘ △ 37.8	↗ △ 3.3
卸・小売業	△ 48.0	△ 27.1	△ 38.5	△ 46.9	↗ △ 40.7	↗ △ 33.6
卸売業	△ 38.6	△ 20.9	△ 35.5	△ 39.7	↗ △ 37.5	↗ △ 26.2
小売業	△ 64.1	△ 36.8	△ 42.9	△ 56.9	↗ △ 46.1	↗ △ 45.6
建設業	△ 26.9	△ 34.8	△ 18.5	△ 20.0	↗ △ 19.4	→ △ 19.4
建築業	△ 31.0	△ 28.3	△ 16.3	△ 16.7	↘ △ 20.5	↘ △ 27.3
土木業	△ 20.0	△ 47.8	△ 22.7	△ 25.0	↗ △ 17.4	↗ △ 4.3
サービス業	△ 35.1	△ 17.9	△ 27.0	△ 19.0	↗ △ 15.6	↘ △ 17.2
物品賃貸業	△ 45.2	△ 22.5	△ 33.3	△ 21.7	↘ △ 25.6	↗ △ 23.3
情報サービス業	△ 14.0	△ 14.3	△ 23.1	△ 22.0	↗ △ 8.3	↘ △ 11.7
広告業	△ 68.4	△ 17.6	△ 25.0	△ 4.8	↘ △ 15.8	↘ △ 21.1

※ 業況判断D.I.は、前年同期と比べて総合的な景況判断が「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。

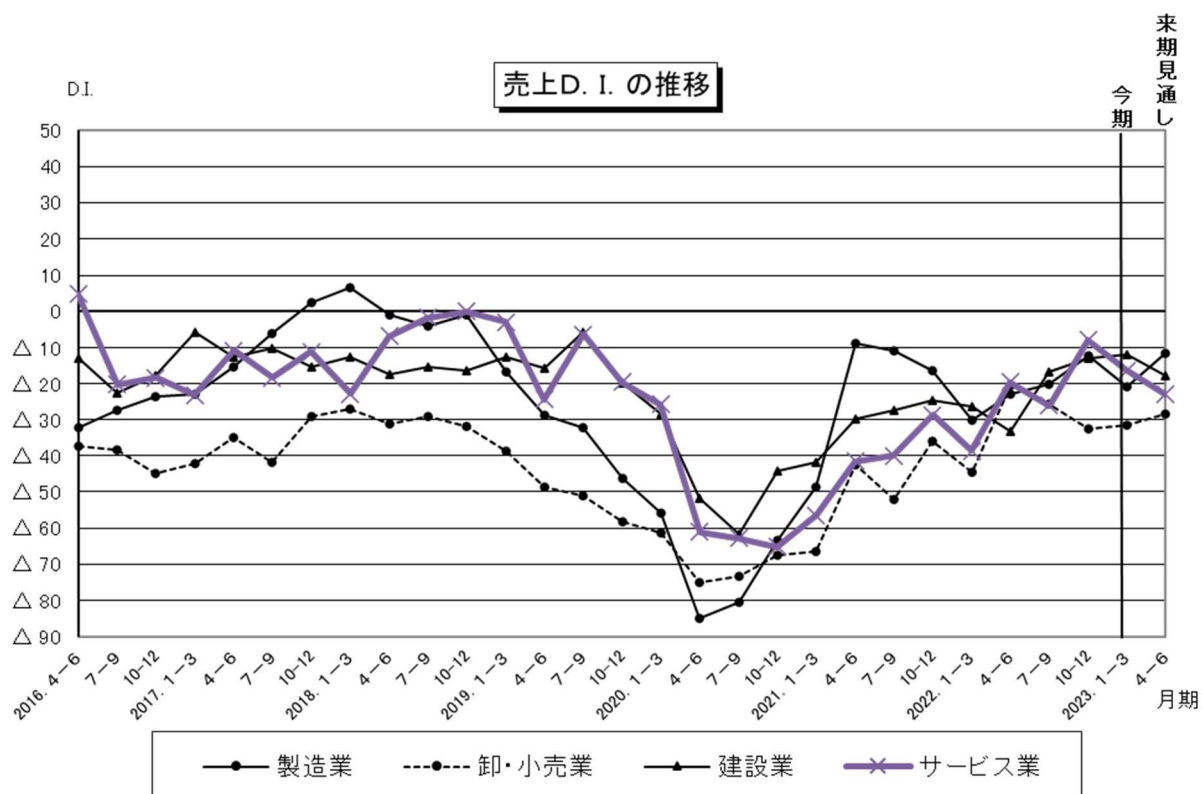


「売上D. I.」の動向

業種	2021. 7-9	2021. 10-12	2022. 1-3	2022. 10-12	2023. 1-3(今期)	2023. 4-6(来期)
全産業	△ 33.9	△ 22.8	△ 21.7	△ 16.1	↘ △ 22.3	↗ △ 16.8
製造業	△ 30.3	△ 23.2	△ 20.1	△ 12.2	↘ △ 21.0	↗ △ 11.6
食料品	△ 15.3	18.3	26.5	15.9	↘ 14.1	↗ 22.5
繊維工業	△ 39.4	△ 13.8	△ 12.5	△ 12.3	↘ △ 14.7	↗ 1.5
木材・木製品	△ 32.6	△ 39.1	△ 40.8	△ 39.5	↗ △ 30.2	↗ △ 25.6
家具・装備品	△ 37.5	△ 57.9	△ 29.4	12.5	↘ △ 27.8	↘ △ 33.3
紙・加工品	△ 23.7	△ 19.5	△ 23.1	△ 6.3	↘ △ 24.3	↗ △ 8.1
印刷	△ 39.4	△ 39.3	△ 22.6	△ 6.5	↘ △ 29.0	↗ △ 19.4
化学・ゴム	△ 37.0	△ 18.6	△ 20.7	△ 5.3	↘ △ 23.3	↗ 0.0
窯業・土石	△ 35.3	△ 31.6	△ 29.1	△ 29.3	↗ △ 26.4	↗ △ 24.1
鉄鋼・非鉄	△ 19.5	△ 22.5	△ 20.6	△ 35.9	↗ △ 19.0	↘ △ 23.8
金属製品	△ 22.2	△ 16.9	△ 23.9	△ 11.5	↘ △ 26.0	↗ △ 20.3
一般・精密機器	△ 14.5	△ 12.7	△ 16.7	△ 11.5	↗ △ 5.1	↘ △ 20.3
電気機器	△ 36.4	△ 25.0	△ 15.8	△ 15.0	↘ △ 39.5	↗ △ 18.6
輸送機器	△ 52.2	△ 58.4	△ 36.0	△ 14.0	↘ △ 32.6	↗ △ 6.7
卸・小売業	△ 44.4	△ 20.4	△ 25.7	△ 32.7	↗ △ 31.4	↗ △ 28.5
卸売業	△ 32.3	△ 12.2	△ 21.7	△ 19.2	↘ △ 25.0	↗ △ 20.2
小売業	△ 65.2	△ 33.0	△ 31.4	△ 51.4	↗ △ 41.7	↘ △ 42.2
建設業	△ 26.5	△ 33.3	△ 16.9	△ 12.9	↗ △ 11.9	↘ △ 17.9
建築業	△ 23.8	△ 23.9	△ 11.6	△ 7.1	↘ △ 13.6	↘ △ 25.0
土木業	△ 30.8	△ 52.2	△ 27.3	△ 21.4	↗ △ 8.7	↗ △ 4.3
サービス業	△ 38.7	△ 19.6	△ 26.1	△ 7.9	↘ △ 16.4	↘ △ 23.0
物品賃貸業	△ 47.6	△ 25.0	△ 30.8	0.0	↘ △ 25.6	↘ △ 27.9
情報サービス業	△ 20.0	△ 16.3	△ 25.0	△ 15.3	↗ △ 8.3	↘ △ 18.3
広告業	△ 68.4	△ 16.7	△ 20.0	△ 4.5	↘ △ 21.1	↘ △ 26.3

※ 売上D.I.は、前年同期と比べて売上が「増加」したとする企業割合から「減少」したとする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。

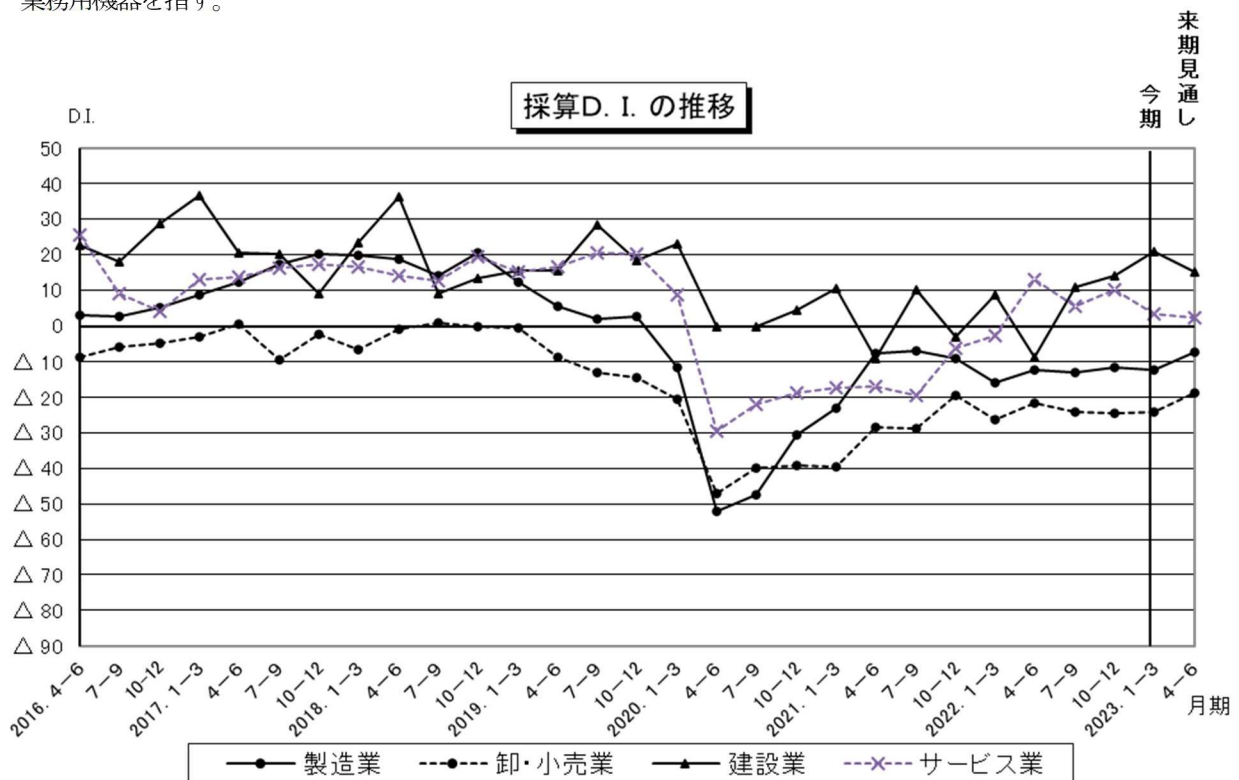


「採算D. I.」の動向

業種	2022. 1-3	2022. 4-6	2022. 7-9	2022. 10-12	2023. 1-3(今期)	2023. 4-6(来期)
全産業	△ 15.5	△ 11.9	△ 12.5	△ 10.6	↘ △ 11.6	↗ △ 7.3
製造業	△ 16.0	△ 12.3	△ 13.2	△ 11.5	↘ △ 12.4	↗ △ 6.8
食料品	△ 18.1	0.0	△ 5.9	△ 15.9	↗ △ 11.3	↗ 1.4
繊維工業	△ 53.0	△ 40.9	△ 19.4	△ 25.9	↗ △ 19.1	↗ △ 10.3
木材・木製品	△ 34.9	△ 26.1	△ 26.5	△ 28.9	↗ △ 14.0	↘ △ 16.3
家具・装備品	12.5	△ 31.6	△ 17.6	△ 6.3	↘ △ 16.7	↘ △ 33.3
紙・加工品	△ 18.4	△ 19.5	△ 12.8	△ 12.5	↘ △ 24.3	↗ △ 10.8
印刷	△ 33.3	△ 10.7	△ 29.0	△ 22.6	↗ △ 9.7	↘ △ 22.6
化学・ゴム	20.4	15.3	1.7	8.8	↘ 6.7	↗ 16.7
窯業・土石	△ 21.6	△ 21.1	△ 18.2	△ 22.4	↘ △ 27.8	→ △ 27.8
鉄鋼・非鉄	△ 24.4	△ 10.0	△ 29.4	△ 15.4	↗ 2.4	↗ 4.9
金属製品	△ 9.1	△ 3.6	△ 9.2	△ 8.8	↘ △ 11.7	↗ △ 8.5
一般・精密機器	△ 3.2	△ 8.1	△ 5.0	3.3	↘ △ 5.2	↗ 0.0
電気機器	△ 27.3	△ 15.9	△ 7.9	2.5	↘ △ 7.0	↗ 2.3
輸送機器	△ 6.7	△ 15.7	△ 15.0	△ 9.7	↘ △ 21.6	↗ △ 7.8
卸・小売業	△ 26.4	△ 21.5	△ 24.1	△ 24.6	↗ △ 24.0	↗ △ 18.9
卸売業	△ 14.6	△ 9.8	△ 16.4	△ 9.3	↘ △ 12.5	↗ △ 8.3
小売業	△ 46.7	△ 39.6	△ 35.2	△ 45.9	↗ △ 42.7	↗ △ 36.3
建設業	8.8	△ 8.7	10.8	14.3	↗ 20.9	↘ 15.2
建築業	△ 9.5	△ 17.4	2.3	4.8	↗ 11.4	↘ 9.3
土木業	38.5	8.7	27.3	28.6	↗ 39.1	↘ 26.1
サービス業	△ 2.7	13.2	5.4	10.2	↘ 3.3	↘ 2.5
物品賃貸業	7.1	22.5	20.5	28.3	↘ 14.0	↘ 9.3
情報サービス業	0.0	14.3	3.8	△ 3.4	↗ 0.0	↘ △ 5.1
広告業	△ 31.6	△ 11.8	△ 20.0	9.1	↘ △ 10.5	↗ 10.5

※ 採算 D.I.は、当期採算が「黒字」とする企業割合から「赤字」とする企業割合を差し引いた値。

※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。

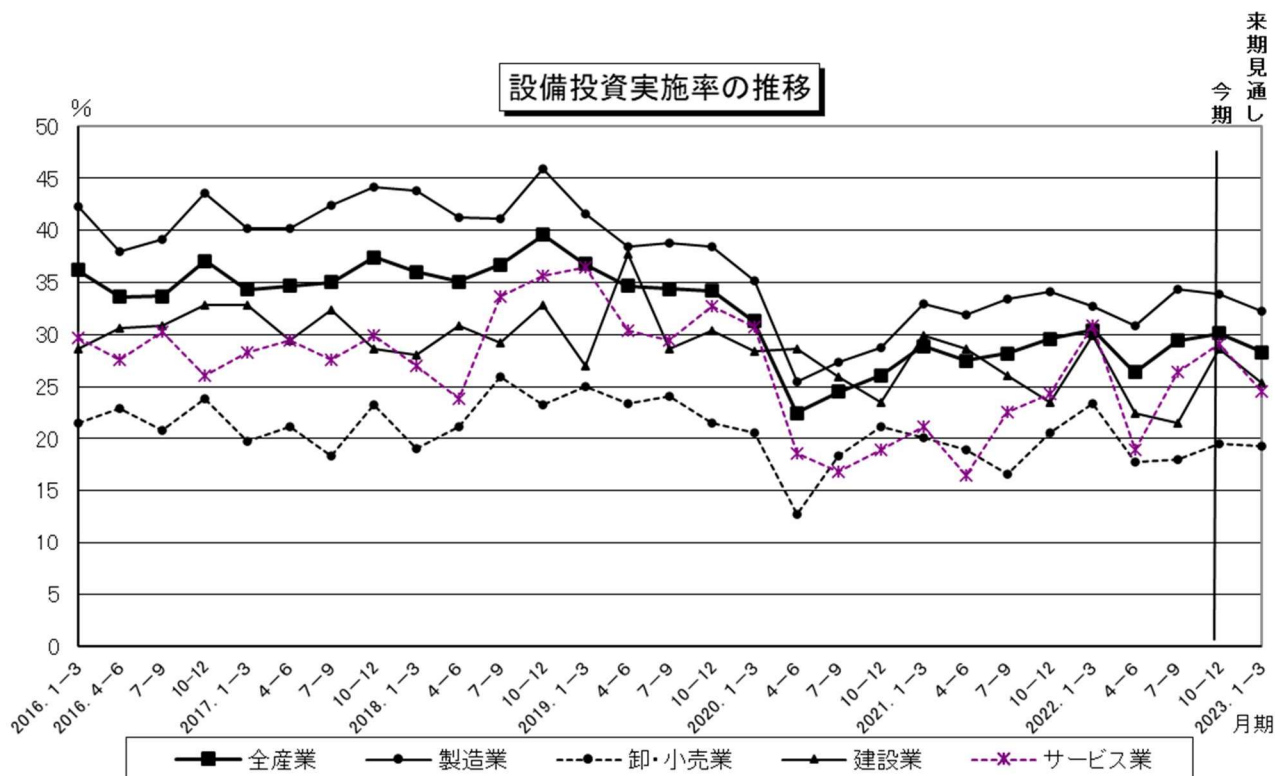


「設備投資実施率」の動向

単位：%

業種	2021. 4-6	2021. 7-9	2021. 10-12	2022. 10-12	2023. 1-3(今期)	2023. 4-6(来期)
全産業	30.4	26.4	29.4	30.0	↘	28.3
製造業	32.7	30.9	34.4	33.9	↘	32.3
食料品	38.0	40.0	41.2	39.1	↗	47.1
繊維工業	24.2	18.5	16.7	14.8	↗	17.9
木材・木製品	7.0	13.0	10.2	10.5	↗	14.0
家具・装備品	31.3	15.8	23.5	37.5	↘	16.7
紙・加工品	18.4	31.7	31.6	34.4	↘	29.7
印刷	39.4	14.3	32.3	40.0	↘	22.6
化学・ゴム	37.0	44.1	47.4	42.1	↗	48.3
窯業・土石	27.5	33.3	38.2	32.8	↗	33.3
鉄鋼・非鉄	24.4	25.0	20.6	38.5	↘	23.8
金属製品	35.7	28.4	41.3	35.1	↘	34.0
一般・精密機器	33.9	32.3	20.0	24.6	↗	30.5
電気機器	18.2	29.5	28.9	27.5	↘	23.3
輸送機器	55.1	46.1	54.0	54.3	↘	43.2
卸・小売業	23.4	17.8	18.0	19.5	↘	19.3
卸売業	22.9	18.3	16.6	20.0	↘	19.2
小売業	24.2	17.0	20.2	18.7	↗	19.4
建設業	29.9	22.4	21.5	28.6	↘	25.4
建築業	19.0	11.4	11.6	21.4	↘	20.5
土木業	48.0	43.5	40.9	39.3	↘	34.8
サービス業	30.9	18.9	26.4	29.1	↘	24.6
物品賃貸業	26.2	17.9	28.2	34.8	↘	27.9
情報サービス業	36.0	22.4	26.9	28.8	↗	30.0
広告業	27.8	11.1	21.1	18.2	↘	0.0

※ 設備投資実施率は、当期において設備投資を「行った」とする企業の割合。なお、来期については、設備投資計画が「ある」とする企業の割合。
 ※ 一般・精密機器は、日本標準産業分類上のはん用機器、生産用機器、業務用機器を指す。



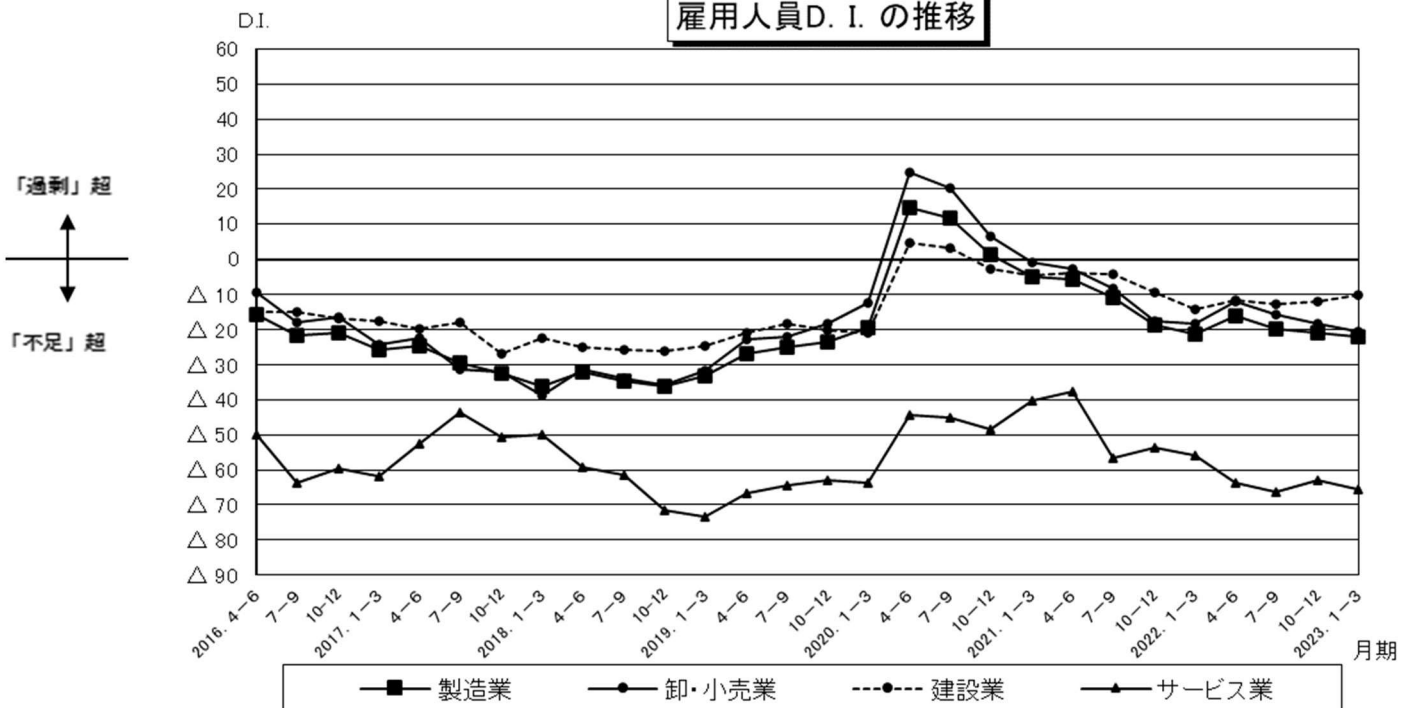
5 資金繰りD. I.

資金繰り D. I. 「好転」-「悪化」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)	2023年4-6月期 (来期)
	全産業	△ 24.1	△ 20.4	△ 23.2	△ 24.8	△ 25.7	△ 23.0
	製造業	△ 23.2	△ 19.4	△ 23.2	△ 24.4	△ 26.8	△ 22.6
	卸・小売業	△ 29.6	△ 25.2	△ 27.2	△ 35.4	△ 29.9	△ 30.5
	建設業	△ 20.6	△ 18.8	△ 18.5	△ 11.4	△ 13.4	△ 14.9
サービス業	△ 19.8	△ 16.8	△ 17.1	△ 12.6	△ 15.7	△ 14.0	

6 雇用人員D. I.

雇用人員 D. I. 「過剰」-「不足」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)
	全産業	△ 21.2	△ 16.2	△ 19.7	△ 21.0	△ 22.1
	製造業	△ 18.3	△ 11.9	△ 15.8	△ 18.4	△ 20.4
	卸・小売業	△ 14.1	△ 11.6	△ 12.9	△ 12.0	△ 10.0
	建設業	△ 55.9	△ 63.8	△ 66.2	△ 62.9	△ 65.7
サービス業	△ 35.1	△ 27.1	△ 34.9	△ 31.5	△ 35.2	

雇用人員D. I. の推移



7 金融機関の貸出態度D. I.

貸出態度 D. I. 「緩い」-「厳しい」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)
	全産業	6.4	7.6	6.1	6.3	2.8
	製造業	6.8	8.8	6.5	6.1	3.8
	卸・小売業	3.0	3.1	4.2	0.4	△ 3.6
	建設業	17.9	14.5	6.3	18.8	13.8
	サービス業	4.0	5.1	7.8	12.1	4.5

8 価格の動向

(1) 販売価格D. I.

販売価格 D. I. 「上昇」-「低下」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)
	製造業	12.0	27.8	31.2	33.0	30.2
	卸・小売業	18.4	36.4	31.1	42.3	44.8
	サービス業	△ 26.1	△ 21.5	△ 9.3	△ 7.1	△ 15.7

(2) 仕入価格等D. I.

仕入価格等 「上昇」-「低下」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期 (今期)
主要原材料 価格D. I.	製造業	84.7	89.6	90.0	89.5	88.4
仕入価格 D. I.	卸・小売業	69.6	82.1	81.3	83.4	84.4
主要資材 価格D. I.	建設業	88.1	84.1	90.8	90.0	92.4

9 設備稼働状況D. I.

設備稼働 状況D. I. 「上昇」-「低下」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月 期	2023年1-3月期 (今期)
	製造業	△ 24.2	△ 23.1	△ 23.8	△ 17.6	△ 24.2

10 顧客（受注先）数D. I.

顧客数 D. I. 「増加」-「減少」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月 期	2023年1-3月期 (今期)
	サービス業	△ 30.9	△ 14.2	△ 17.6	△ 11.0	△ 19.2

11 在庫水準D. I.

在庫水準 D. I. 「過剰」-「不足」	業種	2022年1-3月期	2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月 期	2023年1-3月期 (今期)
	製造業	5.1	6.6	8.4	3.9	9.6
	卸・小売業	2.8	4.9	10.6	9.7	9.6

12 経営上の問題点

<調査方法>以下の項目から、2つまで選択。

【製造業】

- ・売上の不振
- ・原材料高
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・製品安・値下げの要請
- ・エネルギー費用の増加
- ・その他

【卸・小売業】

- ・売上の不振
- ・仕入価格の上昇
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・大型店・新業態の小売店進出
- ・店舗の狭小老朽化
- ・その他

【建設業】

- ・受注の不振
- ・資材高
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・受注単価引き下げ要請
- ・その他

【サービス業】

- ・売上の不振
- ・外注コスト増
- ・金融費用の増加
- ・資金繰り難
- ・人手不足
- ・人件費の増加
- ・受注単価引き下げ要請
- ・新規参入増
- ・その他

業種	順位	2022年7-9月期(前々期)		2022年10-12月期(前期)		2023年1-3月期(今期)	
製造業	1位	原材料高	71.2%	原材料高	70.9%	原材料高	63.8%
	2位	売上の不振	40.1%	売上の不振	39.9%	エネルギー費用の増加	43.8%
	3位	エネルギー費用の増加	32.5%	エネルギー費用の増加	38.5%	売上の不振	40.6%
卸・小売業	1位	仕入価格の上昇	62.7%	仕入価格の上昇	59.3%	仕入価格の上昇	66.4%
	2位	売上の不振	58.0%	売上の不振	56.6%	売上の不振	60.8%
	3位	人件費の増加	17.6%	人件費の増加	20.2%	人件費の増加	19.4%
建設業	1位	資材高	70.8%	資材高	67.1%	資材高	73.1%
	2位	人手不足	56.9%	人手不足	64.3%	人手不足	53.7%
	3位	受注の不振	33.8%	受注の不振	28.6%	受注の不振	32.8%
サービス業	1位	売上の不振	55.8%	売上の不振	47.9%	売上の不振	50.0%
	2位	人手不足	36.5%	人手不足	37.2%	人件費の増加	34.2%
	3位	人件費の増加	24.0%	人件費の増加	27.3%	外注コスト増	

※ 本調査は9つの項目（建設業は8つ）から2つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%を超える。

13 行政が今後強化すべき支援策

<調査方法> 以下の項目から、3つまで選択。

- ・金融支援
- ・経営指導・相談
- ・技術開発・指導
- ・下請適正取引の推進
- ・省エネ支援
- ・雇用維持支援
- ・人材確保支援
- ・人材育成支援
- ・その他

業種	順位	2022年7-9月期(前々期)		2022年10-12月期(前期)		2023年1-3月期(今期)	
		支援策	割合	支援策	割合	支援策	割合
全産業	1位	金融支援	44.9%	金融支援	46.7%	金融支援	43.1%
	2位	雇用維持支援	42.2%	雇用維持支援	39.7%	雇用維持支援	38.1%
	3位	人材確保支援	36.1%	人材確保支援	38.8%	人材確保支援	37.4%
製造業	1位	金融支援	42.5%	金融支援	45.1%	金融支援	40.8%
	2位	雇用維持支援	41.1%	雇用維持支援	38.7%	省エネ支援	39.4%
	3位	人材確保支援	34.7%	人材確保支援	38.3%	下請適正取引の推進	37.8%
卸・小売業	1位	金融支援	55.9%	金融支援	61.3%	金融支援	56.0%
	2位	雇用維持支援	39.0%	雇用維持支援	35.8%	雇用維持支援	39.2%
	3位	人材確保支援	28.0%	人材確保支援	27.5%	省エネ支援	32.8%
建設業	1位	人材確保支援	70.8%	人材確保支援	69.6%	人材確保支援	74.6%
	2位	雇用維持支援	52.3%	雇用維持支援	44.9%	人材育成支援	46.3%
	3位	金融支援	36.9%	人材育成支援	39.1%	雇用維持支援	37.3%
サービス業	1位	雇用維持支援	51.5%	雇用維持支援	50.8%	人材確保支援	47.8%
	2位	人材確保支援	43.4%	人材確保支援	47.5%	雇用維持支援	45.1%
	3位	金融支援	42.4%	人材育成支援	38.1%	人材育成支援	35.4%

※ 本調査は9つの項目から3つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%を超える。

【トピックス調査】

<原油・原材料価格高騰の影響について>

1 収益への影響

業種	原油・原材料価格高騰の収益への影響							
	減少	50%以上	30%以上	10%以上	10%未満	ほぼ変わらない	増加した	分からない
全産業	75.1% (75.5%)	7.1% (5.1%)	18.9% (18.9%)	32.5% (34.8%)	16.6% (16.7%)	14.0% (15.4%)	3.0% (1.4%)	7.9% (7.7%)
製造業	80.5% (81.8%)	8.7% (5.9%)	22.2% (21.4%)	34.9% (39.5%)	14.7% (15.0%)	10.6% (10.9%)	2.7% (1.5%)	6.2% (5.8%)
卸・小売業	72.8% (73.5%)	5.1% (5.7%)	15.7% (20.3%)	33.1% (32.5%)	18.9% (15.0%)	15.4% (16.7%)	3.5% (0.8%)	8.3% (9.0%)
建設業	72.7% (63.7%)	4.5% (1.4%)	15.2% (8.7%)	22.7% (26.1%)	30.3% (27.5%)	13.6% (20.3%)	4.5% (2.9%)	9.2% (13.1%)
サービス業	47.9% (47.1%)	2.5% (0.8%)	7.6% (6.5%)	21.8% (15.4%)	16.0% (24.4%)	32.8% (37.4%)	2.5% (0.8%)	16.8% (14.7%)

※カッコ内は前回調査（2022年10月～12月期）

2 価格転嫁の状況

業種	価格転嫁の状況					
	全くできていない (2割未満)	2割以上5割未満	5割以上8割未満	8割以上	分からない	価格転嫁の 必要がない
全産業	30.1% (27.9%)	29.4% (39.1%)	17.6% (12.8%)	10.2% (9.1%)	3.7% (6.9%)	9.0% (4.2%)
製造業	29.3% (26.0%)	31.5% (43.4%)	20.9% (14.4%)	10.0% (8.5%)	1.5% (5.7%)	6.8% (2.0%)
卸・小売業	25.5% (24.4%)	29.1% (37.6%)	16.3% (14.9%)	15.1% (15.3%)	4.8% (5.0%)	9.2% (2.8%)
建設業	33.3% (33.3%)	37.9% (31.8%)	10.6% (7.2%)	3.0% (5.8%)	0% (20.3%)	15.2% (1.6%)
サービス業	43.5% (43.6%)	12.2% (19.6%)	3.5% (1.7%)	5.2% (2.6%)	18.3% (11.1%)	17.3% (21.4%)

※カッコ内は前回調査（2022年10月～12月期）

<高年齢者の採用について>

1 中途採用における55歳以上の採用方針

業種	高年齢者の採用について	
	積極的に活用していきたい	採用には消極的
全産業	29.6%	70.4%
製造業	31.3%	68.7%
卸・小売業	25.6%	74.4%
建設業	42.4%	57.6%
サービス業	20.0%	80.0%

2 県の施策として求めるもの

※1で「積極的に活用していきたい」と回答した企業が対象

業種	順位	県の施策として求めるもの	
全産業	1位	高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介	37.4%
	2位	無料で参加できるマッチングイベント	18.1%
	3位	高年齢者雇用安定法に関する相談・援助	16.9%
製造業	1位	高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介	39.5%
	2位	無料で参加できるマッチングイベント	17.4%
	3位	高年齢者雇用安定法に関する相談・援助	16.7%
卸・小売業	1位	高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介	33.8%
	2位	高年齢者雇用安定法に関する相談・援助	18.7%
	3位	無料で参加できるマッチングイベント	16.5%
建設業	1位	高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介	34.9%
	2位	無料で参加できるマッチングイベント	23.8%
	3位	高年齢者雇用安定法に関する相談・援助	15.9%
サービス業	1位	高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介	31.9%
	2位	無料で参加できるマッチングイベント	21.3%
	3位	高年齢者雇用安定法に関する相談・援助	14.9%

<調査方法> 以下の項目から、3つまで選択。

- ・無料で参加できるマッチングイベント
- ・高年齢者雇用安定法に関する相談・援助
- ・高年齢者雇用に関する助成金制度等紹介
- ・自社をアピールできる企業研究セミナー
- ・高年齢社員が活躍している事例紹介
- ・潜在人材の掘り起こしと労働市場への参加を勧める相談窓口

※本調査は6の項目から3つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%とならない。

3 採用に消極的な理由

※1で「採用には消極的」と回答した企業が対象

業種	順位	採用に消極的な理由	
全産業	1位	人手が足りている	33.7%
	2位	賃金体系の設定が難しい	23.2%
	3位	高年齢社員の経験を活かす業務がない	22.3%
製造業	1位	人手が足りている	31.7%
	2位	賃金体系の設定が難しい	23.6%
	3位	高年齢社員の経験を活かす業務がない	21.5%
卸・小売業	1位	人手が足りている	44.2%
	2位	賃金体系の設定が難しい	22.6%
		高年齢社員の経験を活かす業務がない	
4位	高年齢社員の経験を活かす業務がない	16.4%	
建設業	1位	若・壮年社員との関係性が難しい	21.8%
	2位	業務のICT化に適応できるか不安	20.0%
		人手が足りている	
4位	賃金体系の設定が難しい	18.2%	
サービス業	1位	人手が足りている	34.9%
	2位	高年齢社員の経験を活かす業務がない	30.2%
	3位	賃金体系の設定が難しい	24.5%

<調査方法> 以下の項目から、3つまで選択。

- ・若・壮年社員との関係性が難しい
- ・高年齢社員が働きやすい職場環境の整備
- ・賃金体系の設定が難しい
- ・高年齢社員の経験を活かす業務がない
- ・業務のICT化に適応できるか不安
- ・高年齢社員の健康管理が難しい
- ・人手が足りている

※本調査は7の項目から3つまでを選択する設問のため、回答の合計は100%とならない。

〔調査の概要〕

- 1 調査時期 2023年3月1日から3月10日まで
- 2 調査対象期間 実績 ----- 2023年1～3月期
見通し ----- 2023年4～6月期
- 3 調査内容
 - 業況判断、売上、資金繰り、販売価格、主要原材料価格、仕入価格、主要資材価格、設備の稼動状況、顧客数及び在庫水準については、前年同期との比較。
 - 採算、設備投資、雇用人員及び金融機関の貸出態度については、当期の実績。

4 指数化の方法

D. I. : 業況判断指数 (ディフュージョン・インデックス)

業況判断D. I. ----- 前年同期と比べて総合的な景況判断が「好転」したとする企業の割合から、「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値。

売上D. I. ----- 前年同期と比べて売上が「増加」したとする企業の割合から、「減少」したとする企業の割合を差し引いた値。

採算D. I. ----- 当期採算が「黒字」とする企業の割合から、「赤字」とする企業の割合を差し引いた値。

設備投資実施率 ----- 当期において設備投資を「行った」とする企業の割合。

資金繰りD. I. ----- 前年同期と比べて資金繰りが「好転」したとする企業の割合から、「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値。

雇用人員D. I. ----- 当期において雇用人員が「過剰」であるとする企業の割合から、「不足」であるとする企業の割合を差し引いた値。

金融機関の貸出態度D. I. -- 当期において金融機関の貸出態度が「緩い」とする企業の割合から、「厳しい」とする企業の割合を差し引いた値。

販売価格D. I.

主要原材料価格D. I.

仕入価格D. I.

主要資材価格D. I.

設備の稼動状況D. I.

前年同期と比べて販売価格、主要原材料価格、仕入価格、主要資材価格、設備の稼動状況が「上昇」したとする企業の割合から、「低下」したとする企業の割合を差し引いた値。

顧客数D. I. ----- 前年同期と比べて顧客数が「増加」したとする企業の割合から、「減少」したとする企業の割合を差し引いた値。

在庫水準D. I. ----- 前年同期と比べて在庫水準が「過剰」であるとする企業の割合から、「不足」であるとする企業の割合を差し引いた値。

(注) ・各指数の表示の合計は、端数により100%とならない場合がある。

・業種によっては、サンプル数が少ないことから、結果に偏りが生じる可能性があることに留意する必要あり。

5 対象企業

以下の基準に該当する愛知県に本社を置く企業から無作為抽出。

製造業・建設業 -- 資本金3億円以下又は従業員300人以下

卸売業 ----- 資本金1億円以下又は従業員100人以下

小売業 ----- 資本金5千万円以下又は従業員50人以下

サービス業 ----- 資本金5千万円以下又は従業員100人以下

6 調査回答状況

区分	全産業	製造業	卸・小売業	建設業	サービス業
標本企業数	2,000社	1,230社	470社	100社	200社
回答企業数	1,260社	782社	286社	68社	124社
回答率	63.0%	63.6%	60.9%	68.0%	62.0%
(前回)	62.6%	63.1%	58.5%	70.0%	65.5%

本資料は、産業政策課の Web ページ(<https://www.pref.aichi.jp/sangyo-seisaku/keikyo/top.htm>)で御覧いただけます。